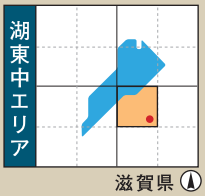
史跡
県指定

神郷亀塚古墳（じんごうかめつかこふん）

能登川町　平成16年3月指定



神郷亀塚古墳は、式内社乎加神社（おかじんじゃ）の北にある小さな丘で、神社の神地として長い間、氏子により守られてきました。小型の前方後円墳と考えられていましたが、平成12年に行われた発掘調査の結果、日本でも最古級の前方後方墳であることが判明しました。

当時のできごと	
247年	卑弥呼、狗奴国との交戦を魏に報告する
3世紀中頃	この頃、箸墓古墳（奈良県）が作られる
528年	継体天皇磐井を討つ



神郷亀塚古墳全景



前方部周濠

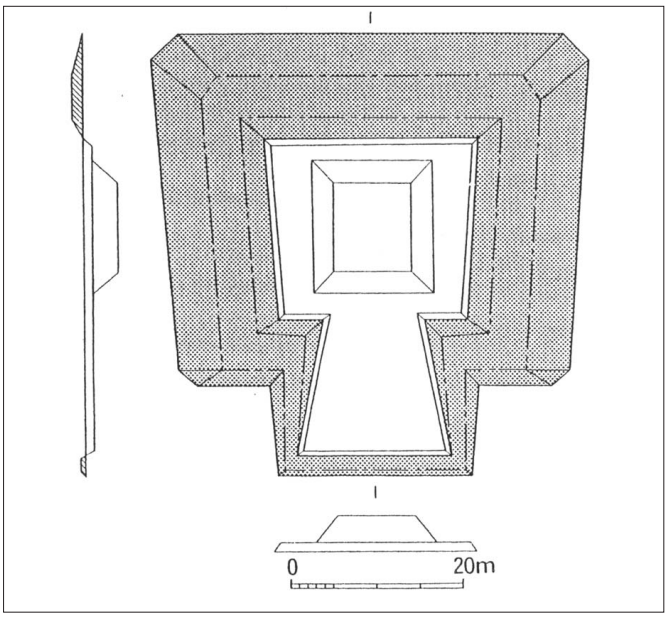
古墳の立地

神郷亀塚古墳は、能登川町の和田山北麓の平地にあります。古墳の北東には、大規模な縄文時代の集落である正楽寺遺跡、西に隣接して、弥生時代から1000年以上も栄えた、湖東地域の中心集落である斗西遺跡、中沢遺跡、法堂寺遺跡があります。また、古墳の背後には式内社乎加神社があります。この古墳は、「亀山」と呼ばれ、神地として地元の人達が大切に守ってきました。

古墳の構造

神郷亀塚古墳は、全長が36.5mの前方後方墳で、前方部が14.5m、後方部が22mあります。古墳を取り巻く周濠は、後方部は幅12.5mですが、前方部では非常に狭く、3mしかありません。現在、地表から約3mの高さの墳丘が残っています。墳丘は、周濠の土を盛り上げて築かれたと考えられますので、現在残る墳丘と、周濠の土量から推測すると、元の古墳の形は、次ページの復元図のような形態であったと考えられます。墳丘後方部からは2基の木槨墓（もっかくぼ：埋葬施設の一種）が並んで見つかっています。

墳丘の中から出土した土器の年代から判断すると、古墳の築造期は3世紀前半と推定され、弥生時代の最後の時期に造られたことになります。そうであれば、国内で最古級の前方後方墳となります。



神郷亀塚古墳復元図



神郷亀塚古墳測量図

神郷亀塚古墳の祭祀

発掘調査の結果、古墳の西側から、弥生時代末の土器が大量に埋納された溝と、同じ時期の住居の跡が見つかりました。墓域を定め、古墳築造の際に祭りが行われていたと考えられます。また、古墳の周辺からは、通常の集落とは機能的に異なる建物や、施設、遺物が出土し、6世紀頃まで古墳に対する祭りや、管理が行われていた様子も明らかとなりました。

神郷亀塚古墳の特徴

近年、県内からは、弥生時代終末期から古墳時代初期にかけての前方後方墳の発見が相次ぎ、注目を集めています。これらの多くは山の尾根を利用して築かれていますが、神郷亀塚古墳の場合は、平地に築かれた出現期の前方後方墳であって、墳丘が残る古墳であることに特徴があります。これまでも冨波古墳（学習シートNo.023）などのように、周濠だけが見つかる古い古墳の例はありましたが、墳丘の形や高さのわかるのは、現在の所、全国でもこの古墳のみです。

関連する文化財

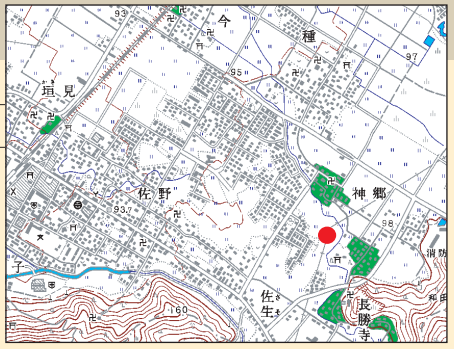
熊野本古墳群（新旭町）	弥生時代の集落熊野本遺跡から続く古墳群。最古級の前方後方墳熊野本6号墳を含む
大岩山古墳群（野州町）	学習シートNo.023

もっと深く知りたい

能登川町埋蔵文化財センター　☎0748-42-5011　神崎郡能登川町山路2225

安土城考古博物館　☎0748-46-2424　蒲生郡安土町下豊浦6678

神郷亀塚古墳へのアクセス　JR琵琶湖線　能登川駅下車



【参考文献】〔神郷亀塚古墳発掘調査報告書〕能登川町教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月